

### あきれた事態！

5000 万件にも及ぶ年金納付記録が、誰のものかわからないために、宙に浮いたままになっている。

これは本来は誰かが支給できるはずのもの

### 本当の持ち主を見つけ出すことを最優先に！

本当の持ち主を至急見つけ出すことが、国・社会保険庁の責任。コンピューターを調べるだけではダメ。コンピューター入力の際のミスもある。どんなにお金がかかっても、市町村の手書き台帳、マイクロフィルムを付き合わせる作業を行うべき。

費用は保険料ではなく、全額税金で行わなければなりません。調査対象は、すべての加入者、そして無年金者も含めるべき。

### 国民に落ち度はない！

政府は、「証拠を出さなければダメ」というが、おかしい！ 国民の側には落ち度はない。国が立証責任を負うべきもの。

## 杉浦ひとみの提案 1 (立証責任は国にある)

- ① まずは、国の責任で各人に年金記録を知らせるべき。社会保険庁のミスなのに国民が聞きに行かなければならないというのは、本末転倒。
- ② 記録に間違いがあれば、調査をするのは国の責任。例えばある企業に勤務していたことなど一定の情報を各人が申告すれば、その人の年金の調査・救済を国の責任として行うべき。立証責任を負うとはそういうこと。

## 杉浦ひとみの提案 2 (安心の年金制度へ)

現在の基礎年金は高い保険料、少ない支給額、長すぎる資格要件で、問題点が多すぎます。

保険料の流用・無駄遣い、ずさんな管理運営を許すわけにはいきません。

宙に浮いた年金記録の原因究明と責任の明確化をはっきりさせた上で、社会保険庁の改革、公的年金制度の抜本改正へ。

- ① 全額税方式で国民のすべてが受け取れる「基礎的暮し年金」(誰でも 8 万円)。2 階部分には所得に比例した年金(企業負担と本人負担)で、老後の安心を確保。
- ② 社会保険庁改革：保険料徴収(税を財源とし徴収事務をなくす)、記録保存(長期にわたる年金納付記録を一元的に国が管理)、相談・情報提供機能(加入者に向き合う)